① 小学部の取組み

「昔の遊びの道具を作ろう」

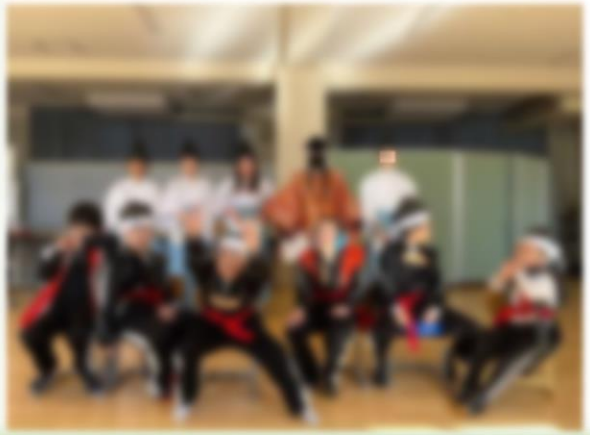
①小学部　低学年
グループ

「Bさんの好き❤を　考えよう」

②小学部3年生

「神楽で交流しよう」

③小学部4年　グループ



「すてるなんて　もったいない！」

④小学部5年グループ

「にこにこ　プロジェクト」

⑤小学部　6年グループ

小学部の取り組み

グループ	学年	指導形態
１G	１・２年生	遊びの指導
２～5G	３・４・５・６年生	生活単元学習

「思考しながらできる活動として
出てきたキーワード（年度当初）」

楽しむ、好きなことを取り入れる、
伝える、関わる、経験のある活動を繰り返す、
積み重ね、考える場面を意図的に設定する

考える場面

選択する（活動、方法、道具）

場面設定

準備場面から

製作、創作活動

好きな活動の中で

R５年度小学部　研究に関連した地域連携協働学習実施状況

3つのカテゴリー	自然を守ろう 環境・資源・エネルギー・気候変動・生物多様性・海洋	みんなが住みやすい町にしよう 人権・福祉・消費・防災・健康・平和・労働	伝統文化を受け継ごう 地域の文化財～石見神楽・郷土料理・方言・[illegible]
各学部における取り組みの方向性（主題）	小学部 ＊友だちや地域の人と一緒に身近な自然に親しもう。	小学部 ＊地域の”もの・こと”にふれて、地域の人と一緒にやってみよう。	小学部 ＊石見神楽を楽しもう。
4・5月			
6月	高：現場実習 中：職場体験	＊人権 [あそび・生単] 地域の人とレクレーション（高） 遊びを通して地域の人とかかわる(低)	[あそび・生単] 神楽鑑賞
7・8	中：販売会		
9月	小：宿泊学習 修学旅行		
10月	中：宿泊学習 高：現場実習		
11月	はまようまつり		[あそび・生単] 神楽面作り
12月			
1～3月	入試 中高：販売会		[音楽] 大正琴の鑑賞・演奏体験
	＊環境 [あそび・生単] 地域の自然に親しむⅠ 海のゴミ拾い（高）		
	＊環境 [あそび・生単] 読書週間　SDGsや自然についてのお話 地域の自然に親しむⅡ		

５年生：実践１
「すてるなんてもったいない！
～紙って神様すごいんだ～

５年生：実践２
「すてるなんてもったいない！
～まちなか交流プラザにコースターを届けよう～」

低学年：実践１
（１・２年生グループ）
「昔の遊びって何？
遊んでみよう！」

低学年：実践２
（１・２年生グループ）
「昔の遊びの道具を作ろう」

３年生：実践２
「Bさんの好き❤を考えよう」

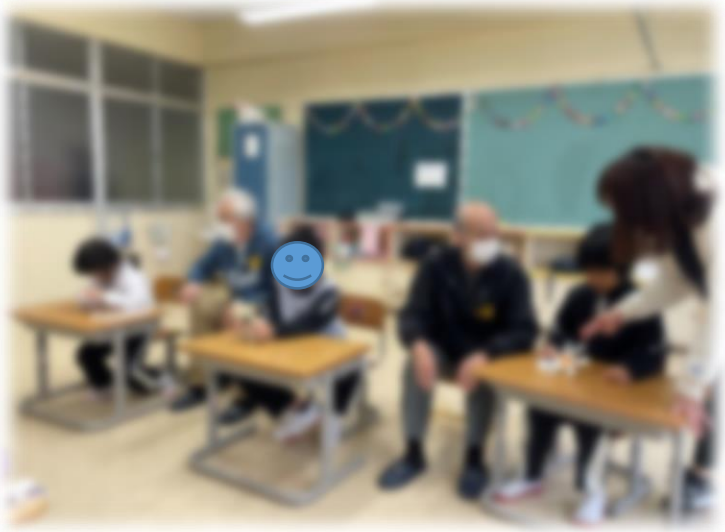
６年生：実践１
「にこにこプロジェクト③
～使わなくなった油で石鹸をつくってピカピカにしよう～」

６年生：実践２
「にこにこプロジェクト④
～紙パックをへーんしん紙漉きでいろいろなものを作ろう～」

3年生：実践１
「Dさんの好き❤を考えよう」

４年生：実践２
「神楽で交流しよう」

①小学部　低学年
グループ



（１）児童生徒の実態

〇友達との関わりを持つことのできる児童が多く、他者からの関わりを受け入れやすい。

〇新しいものへの興味関心が強く、興味を持てれば集中して遊ぶことができる。

●興味・関心の幅が狭い児童もいる。

●友達と協力して活動した経験が少ない。

●支援を求めることが多く、教員に頼ることが多い。

☆コミュニケーション力は幅が広い。

（2）つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念　能力・態度』

□育てたい資質能力

実践①

・昔の遊びを知り、関心を持ち、教員や友達と昔遊びを一緒にしようとする。（知力）

・地域の人と関わりながら、一緒に遊ぶ。（ふるまい）

・地域の方の手本を見て、自分からやりたい遊びを選んだり、工夫したりしながら遊ぶ。（達成力）

実践②

・昔の遊びの道具作りに関心を持ち、地域の人と一緒に道具を作ることができる。（知力）

・地域の人と関わりながら、一緒に作ったり、遊んだりする。（ふるまい）

・手本を見て、自分から作りたい道具を選んだり、作った道具で工夫したりしながら遊ぶ。（達成力）

□ESDの視点

「みんなが住みやすい町にしよう」

地域のもの・ことに触れていっしょにやってみよう

カテゴリー：人権　　遊びを通して地域の人と関わる

□持続可能な社会づくりの構成概念

＊人の意志・行動に関する概念

連携性：地域の人との関わりを考え、自分の生活を工夫すること

〇ESDで重視する能力

・コミュニケーションを行う力（誰かに気持を伝えよう）

・つながりを尊重する態度（つながりを大切にしよう）

（3）指導計画　前期･後期

実践①

11月29日③④　　昔遊びって何？遊んでみよう！

12月4日③④　　達人（地域の人）登場！　昔遊びの披露

地域の人に教えてもらって達人と一緒に遊ぼう。

12月5日③④　　先生や友達と一緒に遊ぼう

12月6日③④　　先生や友達と一緒に遊ぼう　まとめ

実践②

1月17日③④　　昔遊びの道具を作ろう（導入）

1月22日③④　　地域の人と昔遊びの道具を作って遊ぼう

1月23日③④　　振り返り　地域の人へのお礼の手紙

（4）実践Ⅰ
取組みの概要　児童生徒の様子

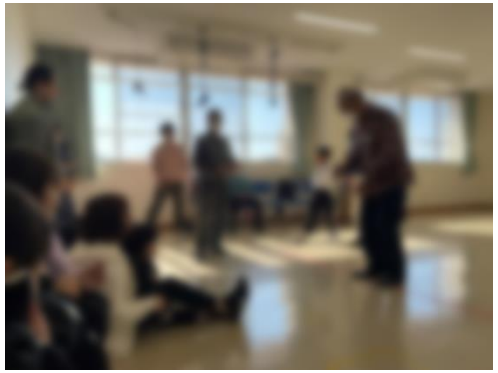
取組の概要

①昔遊びに関心を持つ・経験する

②地域の方に昔遊びを披露してもらう

③地域の方に教えてもらったり、体験したりする

④友達や教員と一緒に昔遊びをする



児童の様子

わらべうたでは、音楽の授業でも扱っているわらべ歌だったので、見通しが持ちやすく、自然に地域の方と触れ合うことができた。

遊びの披露では、見たことのないコマの技やけん玉を見せてもらい、児童はよく見ていた。児童の手の上でコマを回してもらって、コマへの関心が高まったり、実際に体験をしたりして、昔遊びに対する意欲が高まった。

缶ぽっくりやけん玉、コマなど、様々な昔遊びを知り、興味をもって取り組む姿がみられた

（5）思考を深める手だて
成果 改善点

＜手だて＞

〇興味関心をもって取り組めるよう、児童が「やってみたい」と思えるように手本を示す。（達人の披露）

〇自分がやりたい昔遊びを選択し、取り組む場面を設ける。

〇地域の人とやり取りし、手伝ってもらいながら挑戦する場面を設ける。

＜成果＞

〇地域の人の披露を見て、自分からやってみたい道具を手に取り、取り組むことができた。

〇披露を見て、難しいひものコマ回しに挑戦する児童がいた。

〇地域の人との活動の翌日、教員に、同じようにコマ回しをやってほしいと身振りでお願いする姿がみられた。

＜改善点＞

・昔遊びの道具の種類が多すぎて散漫になった。→遊び道具の対象を絞り込む

・披露が見えにくい児童がいた　→どこを見ればよいかわかりやすく示す

（6）実践Ⅱ
取組みの概要　児童生徒の様子

取組の概要

①昔遊びの道具　コマ・羽子板で遊んでみる

②自分が作ってみたい方を選ぶ

③地域の方に手伝ってもらいながら自分の昔遊びの道具を作る

④地域の人と一緒に昔遊びをする

児童生徒の様子

自分のアイディアで描いたり、好きなシールや好きな色のマジックを選んだりする主体的な姿が見られた。同時に、地域の方からのアドバイスを受け入れながら、羽子板やコマを作る姿などが見られた。

遊ぶ時には、対面になって羽子板で打ち合ったり、打ち方を教えてもらったりするなど、たくさんの地域の方とやり取りしながら遊ぶことができた。

（7）改善点をもとにした思考を深める手だて
成果　課題

＜手だて＞

〇既製品の昔遊び道具ではなく、身近な材料を用いて、自分で昔遊びの道具を作る活動を通して、自分で考えたり、工夫をしたりする活動の設定

〇これまで経験のない「羽子板」を取り上げ、名称や遊び方を知ったり、経験を広げたりできるようにした

〇「体験→児童が作りたいものを自分で選ぶ」という活動の流れで、体験後に自分の希望のおもちゃを選択する場面を設定した。

＜成果＞

〇体験した後、児童が自分の作りたい道具を実物を見て自分で選ぶことができた。

〇児童が主体的に、作ったり遊んだりすることができた。自分の思いや考えを制作時に色や描くもの、貼る物（シール等）で作品に表すことができた。

〇活動後の感想を「羽子板が楽しかった」等、言葉で気持ちを伝えることができた。

＜課題＞

●作りたいものを選択した際に、思考を深めるような問いかけができればよかった。

●振り返りの仕方の工夫するひつようがあった。→表情マークなどで選ぶ。

（8）まとめ

〇「選択」することで、自分の気持ち（これがやりたい）の表現をすることができた。
「なぜ、それを選んだか？」 理由など、言葉の表出のある児童には、さらに一歩踏み込んで考える発問をする必要があった。

〇言葉の表出がない児童に対する支援 振り返りや感想発表において
⇒表情カードで自分の気持ちを表すことができるようにするなど、振り返りの方法の工夫をしていきたい

〇楽しい体験を通して情動を揺さぶることの大切さ
「すごい！」「やってみたい」「おもしろい」「これがしたい」
低学年児童～好きなものを増やすこと」の大切さ
実践2のあと、家庭で「学校楽しかった」「こま、つくった」とコマを作ったことを家族に伝えた児童がいた。
楽しかった経験→伝えたい気持ち

〇地域の方とのかかわりの中で 大人と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり 挑戦する気持ちを持ったりすることができた。
〇昔あそびを取り上げ、2回取り組んだことで、児童と地域の方の関わりが深まった。児童も安心して関わることができた。

②小学部3年生

（１）児童生徒の実態

強み

・友だちへの関心が高まってきている。友だちを頼ったり、友だちの姿を見て自分もやってみようとしたりする姿が見られる。

・経験のあることには進んで取り組もうとする。

課題

・友だちとの関わりがまだ少ない。

・経験が少なく、興味関心に偏りがある。

(2) つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念　能力・態度』

実践Ⅰ

知力

自分や友達の好きなことを考え、神楽に関わる中で好きなことを見つけたり、やりたいことを選んだりする。

ふるまい

教員と一緒に地域の人にあいさつをしたり、自分なりの方法で関わったりする。

達成力

教員や友達と一緒に目標ややりたいことを伝え合ったり、自分の役割に取り組んだりする。

ESDの視点

【伝統文化を受け継ごう】
石見神楽

構成概念

Ⅰ多様性　Ⅳ公平性　Ⅴ連携性

能力・態度

④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度
⑦進んで参加する態度

（3）指導計画

実践Ⅰ

次	時	主な学習内容
1	１・２	○Dさんの好き♡を考えよう
2	３・４	○神楽の道具（弊）に触れよう、作ろう ★地域の方を招いて
	５・６	○恵比寿さんの魚を作ろう
	７・８	○恵比寿を舞ってみよう
	９・１０	○地域の方と一緒に舞おう ★地域の方を招いて
3	１１・１２	○ふりかえろう

（4）実践Ⅰ
取組みの概要　児童生徒の様子

実践Ⅰ

取り組みの概要

〇D児の好きなことを考える。
　⇒「石見神楽」
〇地域の方と一緒に弊を作る。
〇地域の方と一緒に恵比寿を楽しむ。

児童の様子

・地域の人に関心をもち、来校を楽しみにしたり、進んで関わったりしていた。
・目の前で恵比寿を舞ってもらい、全員見入っていた。石見神楽への関心も少し高まった。

（5）思考を深める手だて
成果　改善点

実践Ⅰ

思考を深める手立て

・児童の好きなことや身近なものを題材として取り上げる。
・写真やイラスト、実物等を活用する。
・選択肢を提示する。
・地域の方に教わったり、地域の方と一緒に活動したりする機会を設ける。

成果

〇写真やイラスト、実物があることで、それらを手掛かりとしながら思考する（選んだり発言したり）する様子が見られた。
〇地域の方や石見神楽への関心が高まった。
⇒学習意欲up

改善点

●誰の好きなことを考えるかについて、おさえが足りなかった。
⇒繰り返し確認し、意識づける。
●児童によっては難しい
⇒実態に応じた手立て

（6）つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念　能力・態度』

実践Ⅱ

知力

友達や自分の好きなことを考え体験することを通して、ひとやものへの関心を拡げる。

ふるまい

地域の人と一緒にパーティーをするという意識をもち、準備や練習に取り組む。

達成力

活動に見通しをもち、友達と一緒に役割に取り組んだり、友達や地域の人と一緒に楽しんで活動したりする。

ESDの視点

【みんなが住みやすい町にしよう】
人権

構成概念

Ⅰ多様性　Ⅳ公平性　Ⅴ連携性

能力・態度

④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度
⑦進んで参加する態度

(7) 指導計画

実践Ⅱ

次	時	主な学習内容
1	１・２	Bさんの好き♡を考えよう
	３・４	パーティーの内容を考えよう
2	５・６	オリジナルブック（好きなもの図鑑）の内容を考えよう
	７・８ ９・１０ １１・１２	オリジナルブックをつくろう 発表の準備・練習をしよう
	１３・１４	パーティーをしよう ★地域の人を招いて
3	１５・１６	ふりかえり

（8）実践Ⅱ
取組みの概要　児童生徒の様子

実践Ⅱ

取り組みの概要

〇B児の好きなことを考える。
　⇒本（図鑑）
〇好きなもの図鑑を作る。
〇地域の方に好きなもの図鑑を紹介したり、一緒にゲームをしたりする。

児童の様子

・実態に応じたやり方で、図鑑に載せるものを調べたり、写真を切って貼ったりと、進んで活動に取り組んでいた。
・地域の人と自然な関わりができていた。挨拶もしっかりできた。

（9）改善点をもとにした思考を深める手だて
成果　課題

実践Ⅱ

思考を深める手立て

・児童の好きなことや身近なものを題材として取り上げる。
・実態に応じたやり方で写真やイラスト、実物等を活用する。
・選択肢を提示する。
・地域の方に向けた活動や、地域の方と一緒にする活動の機会を設ける。
・誰の好きなことを考えるのか、繰り返し児童とやりとりしながら確認する。
・パーティーでするゲームや好きなもの図鑑の内容など、意欲的に思考できる場面を設ける。

成果

〇誰の好きなことを考えるか、これまでより理解して取り組めている様子だった。
〇馴染のあるぽかぽかさんと安心して関わっていた。

課題

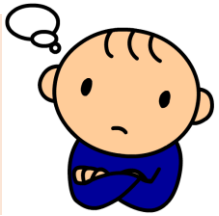
●子どもに思考させるための手立てが不十分だった。
⇒視覚支援の活用の仕方
⇒児童の思いにそえるような言葉かけや発問（ex.選んだ理由を聞いてみる）
⇒「待つ」「任せる」姿勢

（10）まとめ

分かりやすく、取り組みたくなるようなテーマ設定

視覚支援
（発問の見える化、写真やイラスト）

〇〇さんの好きなことってなんだろう？
一緒にやってみよう！

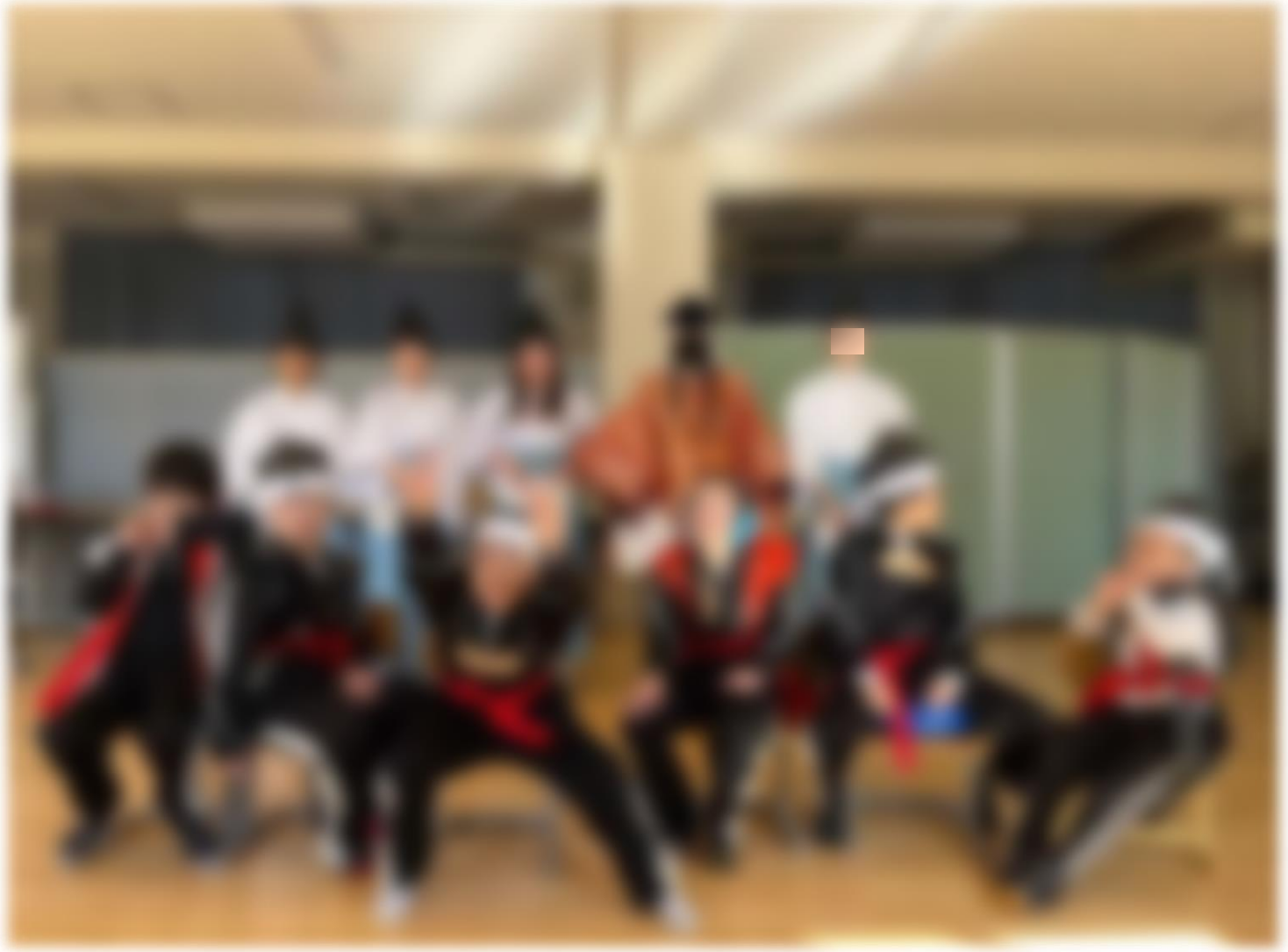


選択肢

単元の繰り返し
⇒見通し、意欲

地域の人と一緒に楽しむ機会
⇒意欲、期待感

③小学部4年　グループ



（１）児童の実態

強み

- 人と関わるのが好きな子どもが多い。
- 友だちへの関心が出てきた子どもがいる。
- 好きな活動に集中して取り組むことができる。

課題

- 友だち同士で協力することが難しい。
- 興味・関心の幅は狭く、経験に乏しい。
- 自分から伝えることが難しい。
- いろいろな人と関わるという経験が浅い。

(2) つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念　能力・態度』

知力

・経験を積み重ねることで、自分なりに工夫したり、興味・関心を拡げたりする。

ふるまい

・地域の人に自分からあいさつをしたり、約束を守って行動したりする。

達成力

・自分のやることがわかり、地域の人や教員と一緒に最後まで活動することができる

ESDの視点

・みんなが住みやすいまちにしよう
・伝統文化を受け継ごう

ESD構想概念

II　相互性
V　連携性

能力・態度

④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する力

（3）指導計画（実践Ⅰ）

実践①　～9月～
「竹で遊ぼう！地域の人とかかわろう！」

★竹でつくってみよう～はしとコップ～
★そうめん流しをしよう
★作るおもちゃをえらぼう
★竹でおもちゃ作りをしよう

予定通り実施できず、中止

(実践2)「神楽で交流しよう」

日　時	活　動　内　容
2月6日③④	これまでの神楽の学習を思い出そう 「かぐらだいすきのかい」をしよう ～竹原さんがよろこんでくれるためには　どうしたらいいかな？～
2月7日③④	準備をしよう（かんばん・プログラム） 神楽の練習
2月8日⑤	リハーサル・関わり方について
2月9日③④	**「かぐらだいすきのかい」** ・恵比寿発表・本物の恵比寿を見る ・一緒に恵比寿を舞う・幣と面の制作
2月13日②	ふり返り

（4）これまでの石見神楽に関する学習の実践

３年生の時

本物の神楽に触れる体験（見る・作る）

竹原さん・瀧山先生との交流

４年生６月

本物の神楽に触れる体験（見る）

↓

神楽発表会（アナさん、校内の先生方を招待）

（5）思考を深める手だて
成果　改善点

子どもが思考する場面

→作るものを決める（お面の種類：選択肢から選ぶ）

→やりたい役割を選ぶ（太鼓・恵比寿）

（6）実践Ⅱ　取組みの概要 児童生徒の様子

<取り組みの概要>

①これまでの神楽に関する学習を ふりかえる
②竹原さんに喜んでもらうために どうするか
　考える
③準備をする（係、看板、プログラム）
④神楽の練習をする
⑤リハーサルをする
⑥かかわりかたについて考える
⑦「かぐらだいすきのかい」本番
（神楽の発表・見る・一緒に舞う・幣と面の制作）
⑧ふりかえりをする

<児童の様子>

・神楽発表は、6月よりも意欲的に取り組める児童が多かった。
・喜んでもらうためにどうしたらいいか、姿勢や表情にポイントを絞ると自分で考えたり、2枚のカードから適切なものを選べたりした。
・関わり方について、挨拶の言葉は自分で考えられる児童もいた。
～「こんにちは」「ありがとう」～
・言葉で関わろうとする児童は少なかったが、飴を渡したり、魚を渡したりすることで関わろうとする姿が見られた。

（7）改善点をもとにした思考を深める手だて
成果　課題

＜思考を深める手立て＞

・よりよい発表にするためにはどうしたらいいかを意欲的に考えられるように、相手（竹原さん）への意識が高まるような投げかけをする。→竹原さんからの要望・期待に応える！！
・よりよい発表にするためにはどうしたらいいか考えられるように、実際の発表の動画をみた後、ポイントを示して考える時間を設定する。（姿勢・表情など）
・姿勢や表情について、どちらがいいか選べるように選択肢のカードを準備する。
・あいさつの言葉やお願いするときの言葉など、かかわり方について前もって考える時間を設定する。

＜成果＞
・考える力には実態差があるが、カードを用いることで、全員が考える時間をもつことができた。
・竹原さんのために…と相手意識をもって意欲的に考えることができた児童もいた。
・関わるための言葉かけについて、挨拶の言葉を自分で考えられる児童がいた。
・地域の人に自分からあいさつをして関わることができた。

＜課題＞
・思考ができにくい児童、言葉で表現できない児童への手立てが十分できなかった。
・言葉で表現できる児童も、物を介してのかかわりが主となり、実際には言葉が出にくかった。～「おねがいします」など。

(8)まとめ

～思考に関して～

- 相手意識をもたせることは、意欲的に思考することにつながった。
- 思考する時間を設けることは今後の学習活動において大切。経験を積んでいく必要がある。
- 一方で、思考が難しい児童への支援のレパートリーを増やしていかなければならない。（カード選択の他にも…）

～興味関心を拡げることに関して～

- これまでの経験を振り返りながら活動し、さらに経験を積み重ねていくことで、神楽への興味が薄かった児童も少しずつ慣れ親しみ、関心を拡げるきっかけとなった。

④小学部5年グループ

（１）児童生徒の実態

・実態の差が大きく、活動によっては、役割やグループに分けて学習を行っている。

・興味や関心のある学習、これまで経験してきた内容の発展的な学習等に、意欲的に取り組むことができる。

・自分の考えを伝えたり、考えたりすることが苦手だが、事前にワークシート等を使って書いたり、選択したりすることで考えや伝えたいことを整理することができる。

・授業に見通しをもつことができると、単元のゴールを意識しながら、学習に取り組むことができる。

（2－1）つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』

☆育てたい資質・能力

実践Ⅰ

- 紙の特性や良さに気づいたり、紙やパルプ液等を比べたりすることができる。（知力）
- 自分の考えや思いを相手（友達、教員）に伝えることができる。（ふるまい）
- 友達や先生と協力したり、自分で気づいて手伝ったりすることができる。（達成力）

実践Ⅱ

・自分の考えや思いを相手に伝えたり、相手の考えを受け入れたりすることができる。（知力）

・地域の方に対する言葉使いやマナーを守り、一緒に活動することができる。（ふるまい）

・コースターについての要望に対してどのようにしたらいいのか、選択肢から選んだり、理由を考えたりしながら作業に取り組むことができる。（達成力）

（2－2）つけたい力・ねらいについて

『ESD構成概念　能力・態度』

☆ESDの視点

「自然をまもろう」

捨てるともったいない資源が分かり、大切にしようとする力を養う。

☆持続可能な社会づくりの構成概念

【Ⅲ：有限性】

自然をまもるために、自分たちにできることを考える。

☆ESDで重視する能力・態度

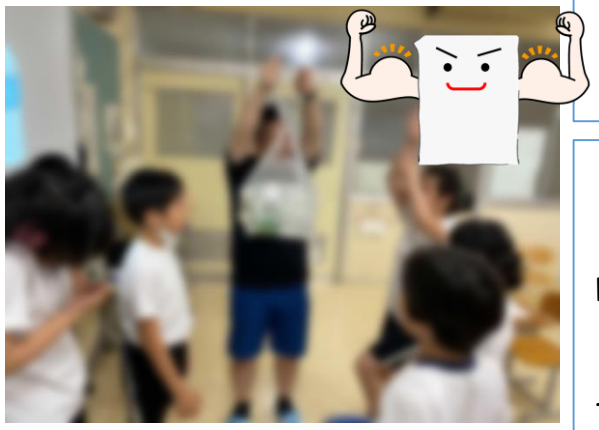
・コミュニケーションを行う力
・他者と協力する態度

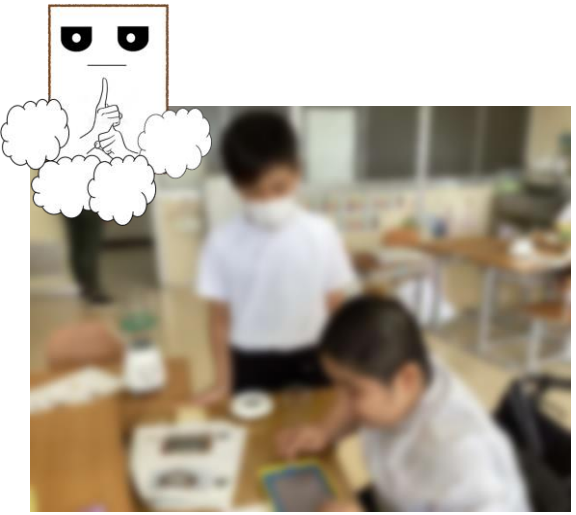
自分の考えを伝え、他者と協力しながら活動をする。

（3）指導計画

	実施時期	学習内容
実践Ⅰ	９月（全１４時間）	☆すてるなんてもったいない！～紙って神様すごいんだ～ ・紙のすごいところ３つ（軽い、強い、変身できる）を実際に体験する。 ・家庭で「紙になりそうなもの」を保護者と一緒に相談し、学校に持ってきて、紙になるかの実験をする。 ・まちなか交流プラザから手紙が届き、コースターに使用する紙の材料を何にするか、実際に紙すきをして見比べてみる。 ・牛乳パックが足りないため、１１月に向けて学校に設置するための箱とポスターの準備をする。
実践Ⅱ	１１月下旬～１２月上旬（全１８時間）	☆すてるなんてもったいない！～まちなか交流プラザにコースターを届けよう～ ・まちなか交流プラザの中平さんからビデオメッセージを受けて、「商品開発G」と「製造G」に分かれてそれぞれ活動する。 ・紙すきをしてコースターや回収ボックス等を作る。 ・贈呈式に向けて頑張ったことを振り返ったり、会の準備をしたりする。 ・贈呈式にまちなか交流プラザの方を招いて成果発表と贈呈を行う。

（4）実践Ⅰ「すてるなんてもったいない！～紙って神様すごいんだ～」取組みの概要　児童の様子





【取り組みの概要】

・いつも何気なく使っている紙には、すごい性質があることを知る。

・家庭で紙に変身できようなもの（段ボール、チラシ等）を、家庭で相談し、学校でミキサーにかけ、紙になるか実験する。

・まちなか交流プラザからコースターの依頼を受け、きれいなコースターになる材料を探し、材料を集めるためにどうしたらよいか考える。

・ポスターを作り、回収ボックスを設置する。

【児童の様子】

・紙の「軽い」「力持ち」「変身できる」の3つの性質を実験することで意欲的に活動に参加できた。

・各家庭に協力していただいだことで、様々な材料が集まった。紙になるか予想して実験することで、紙になるものと、固まらないものがあることが分かった。

・「チラシ」「段ボール」「牛乳パック」等で漉いた紙に、コップをのせたり、触ったりすることコースターに向いている材料を話し合いながら決めることができた。

・オリジナルのポスターを作り、各職員室と事務室に掲示してもらえるように丁寧な言葉を意識しながら伝えていた。

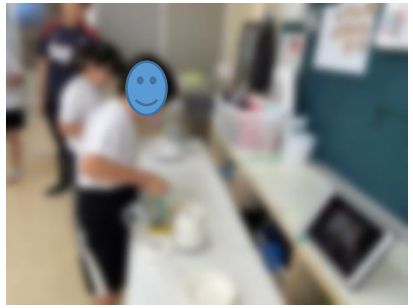
（5）実践Ⅰ「すてるなんてもったいない！～紙って神様すごいんだ～」
思考を深めるための手立て・成果と改善点

【思考を深めるための手立て】

・1学期の学習内容に近い単元にすることで、見通しがもちやすく、「もったいない」ことに気づきやすい。

・「考える→やってみる→結果」を学習の中ですることで、子どもたち自身で答えを出せるようにする。

・少人数のグループで作業することで、材料をミキサーにかけたり、型に入れたりする時に状態が見やすく、児童同士で話しやすくなる。



【成果】

・実験することで、予想したり、ミキサーにかけた後の状態を見比べて感じたことを伝えたりすることができた。また、紙からできているものは、紙になることに気づく児童もいた。

・繰り返し「もったいない」を伝えることで。普段でも紙を大切に使おうとする姿が見られた。

【改善点】

・家庭での連携がうまくとれていなかったために、児童が考えて家からもってくるのではなく、保護者の方が選んで持ってくる児童が多かった。

・地域との関わりが少なかったため、児童からの発信にならず、やらされている授業になってしまった。

（6）実践Ⅱ「すてるなんてもったいない！～まちなか交流プラザにコースターを届けよう～」取組みの概要　児童の様子

【取り組みの概要】

・まちなか交流プラザの方からビデオメッセージをもらい、「使いたいコースターのポイント」「コースター以外に作ってほしいもの」を伝えてもらい、2つのチームに分かれて活動を行う。

・まちなか交流プラザの方を招待し、コースターの贈呈式を行う。

【児童の様子】

・商品開発チーム…ポイントを活かしたコースターにするためにしっかり考えることができた。実験も自分たちで準備して友だちと協力しながらする姿が見られた。

・製造チーム…牛乳パック回収や仕分け等、見通しの持ちやすい活動を中心に行うことで落ち着いて取り組んでいた。

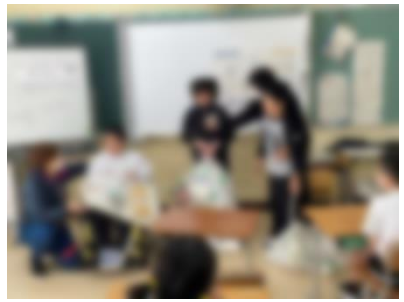
・贈呈式では、これまでの活動で頑張ったことを児童なりの発表の仕方で伝えることができた。まちなか交流プラザの方からの質問にも答えたり、自分から説明する姿も見られた。

（7）実践Ⅱ 「すてるなんてもったいない！～まちなか交流プラザにコースターを届けよう～」
改善点をもとにした思考を深めるための手立て 成果と課題

【改善点をもとにした思考を深めるための手立て】

・まちなか交流プラザの方との交流を増やし、児童の意欲につなげる。

・一部の活動を実態別に分け、それぞれの児童に応じた活動内容を設定する。



【成果】

・導入にビデオメッセージを流すことで、これからの活動に見通しをもつことができ、期待感をもって学習に向かうことができた。

・実態別に活動グループを分けることで、それぞれの児童が役割を理解して学習に取り組むことができた。

・贈呈式をしたことで、児童から交流プラザの方に関わる姿が見られた。

・児童から「またやりたい」「交流プラザにいきたい」という声があった。

【課題】

・コースターを作る時間をしっかりとれなかった。

・実際に交流プラザに行くことができず、コースターを使っている様子が見られなかった。

（8）まとめ

☆地域との活動を設定する。

地域の方との活動設定をすることで「〇〇さんのために」という他者を意識しながら行うことで、よりよいものにしようとすることができた。

☆単元の統一性

前期と後期ともに単元を「もったいない」をテーマに活動を行ったことで、発展的な内容でも児童が前時でした学習の内容を生かした発言をする姿が見られた。

☆考える→体験する→結果

考えるだけで終わるのではなく、実際にやってみることで、たくさんのことを発見したり、気づいたりすることができた。また、体験することで新しい「なんで？」につなげることができたため、学びを深めることができた。

☆児童自身が考えたり、選択したりしながら活動に取り組む姿がみられた。

☆実験を取り入れることで、自分の考えをフィードバックすることができた

⑤小学部　6年グループ

（1）児童生徒の実態

〇一つの目標に向かって役割分担したり、
協力したりして活動に取り組むことができる。

〇興味関心があることや、繰り返し
経験したことに意欲的に取り組む姿が見られる。

〇学習に地域の人が来ても、物おじせずに
活動に取り組み、地域の人と関わることができる。

〇いちから考えることが段階的に難しい。
→クイズ形式（選択肢）やヒントがあることによって自分で思考していくことができる。

（2）つけたい力・ねらいについて

『育てたい資質・能力』『ESD構成概念　能力・態度』

使わなくなったものを工夫すればまた使えるようになることを知る
（知力）

自分たちがリサイクルして作ったものを使ってみんなに（地域の人）喜んでもらうためには何をしたら良いか考える
（知力）

育てたい資質・能力

相手を意識して制作活動に取り組んだり、人とやりとりしたりする。
（ふるまい）

自分から取り組んだり、様々な方法で人と関わったりしながらやるべきことに取り組む
（達成力）

ESDの視点に立った学習の目標

ESDの視点

【みんなが住みやすい町にしよう】
地域のニーズを知り、
地域のために活動する。

ESD構想概念

Ⅱ　相互性

Ⅲ　有限性

Ⅵ　責任性

能力・態度

③多面的・総合的考える力

⑥つながりを尊重する態度

⑦進んで参加する態度

（3）指導計画（前期）

ひにち	ないよう
６がつ１９にち (げつ)③④	○リサイクルについてしろう ○せっけんづくり
６がつ２０にち (か)③④	○ぴかぴかにしよう①
６がつ２１にち (すい)③④	○ぴかぴかにしよう② ○ラッピングしよう
６がつ２２にち (もく)⑤	○ラッピングしよう ○ふりかえろう
６がつ２３にち (きん)②③④	○せっけんをとどけにいこう ○かつどうをまとめよう

（3）指導計画（後期）

ひにち	ないよう
１１がつ２８にち （かよう）③④	○リサイクルクイズ ○かみすきのじゅんびをしよう
１１がつ２９にち （すい）③④	○かみすきをしよう①
１１がつ３０にち （もく）⑤	○かみすきをしよう②
１２がつ４にち (げつ)③④	○ちいきのかたとかみすきをしよう
１２がつ５にち (かよう)③④	○かんがえよう ○わたすじゅんびをしよう①
１２がつ６にち (すい)②③④	○わたすじゅんびをしよう②
１２がつ８にち （きん）②③④	○わたすじゅんびをしよう ○かみすきをとどけにいこう

（4）実践Ⅰ
取り組みの概要　児童生徒の様子

取組の概要
①にこにこお別れ会で油を使った調理活動
②地域でも使わなくなった油があることや、油がリサイクルによって生まれ変わることを知る
③使わなくなった油をどうしたらよいか考える
④廃油石鹸づくり、学校内ぴかぴか活動
⑤廃油石鹸を「魚のなかだ」さんにプレゼント

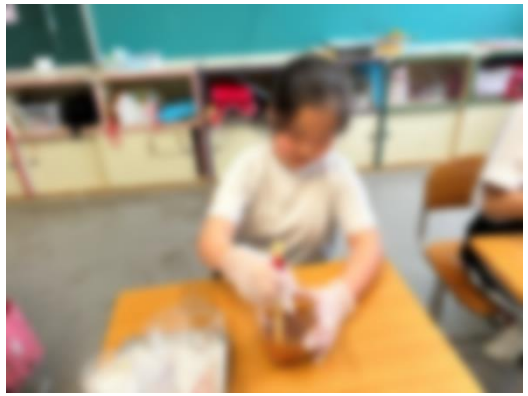
児童の様子
〇みんながニコニコになるための目標に向かい、１人１人が意欲的に活動に取り組んでいた。

〇安全に気を付けながら廃油石鹸づくりに取り組んでいた。

〇「地域のために」という思いをもちながら、プレゼントする準備に取り組み、みんなで渡すことができた。

①

④



⑤

（5）思考を深める手だて
成果 改善点

思考を深めるための手立て

・調理で発生した大量の油を見たり、捨てたりすることを知ることで、「もったいない」の気持ちや発言を促す。

・調理台を他の人も使うことを知り、気持ちよく使うためにどうしたらよいか考えられるようにする。

・油で石鹸を作って掃除ができることに気づき、自分たちで掃除をすることに気づけるようにする。

・自分で考えた場所（シンク・調理台）を掃除できるようにする。

成果　改善点

〇動きやキーワードを繰り返し学習の中で用いたことで親しみをもちながら活動に取り組み、使わなくなったものがまた使えるようになることを知ることができた。

〇リサイクルや地域に関心をもつことにつながった。

△「リサイクル」＝「変身」のキーワードを知ることができたがしくみや言葉の関係性の理解が難しかった。

△学習したことを日常生活に般化させることが難しかった。

△地域との直接的なかかわりの場が少なく、また子供たちへのフィードバックがなく達成感が少なかった。

（6）実践Ⅱ
取り組みの概要　児童生徒の様子

取組の概要

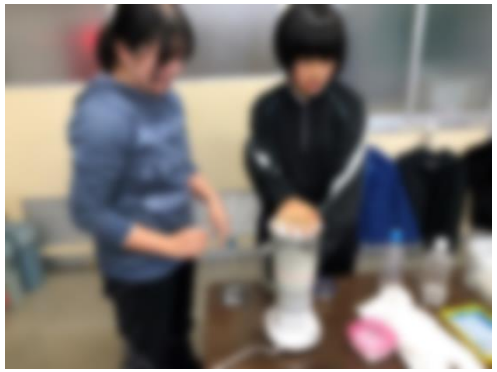
①リサイクルクイズで紙が変身することを知る
②紙漉きを体験する
③紙漉きで自分たちにできることを考える
④紙漉きをしてはがきを作る
⑤学校の教員、保護者、地域の人にプレゼントをする
⑥紙漉きで作った紙を授業で使う

児童の様子

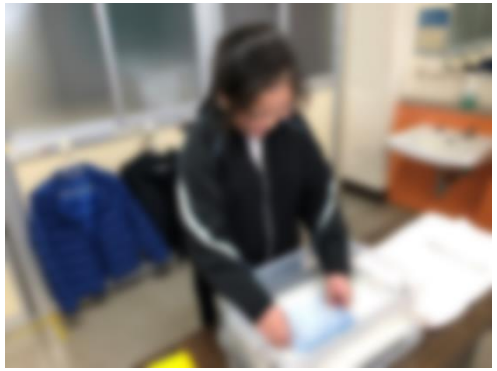
〇1学期からの繰り返しの学習により、「にこにこ」という目的を理解して取り組む様子が見られた。

〇繰り返し取り組むことで紙漉きの流れがわかり、それぞれの活動に見通しをもち取り組む様子が見られた。

①



②



⑤

（7）改善点をもとにした思考を深める手だて
成果　課題

〇成果　△改善点

〇子どもたちから「リサイクル」の言葉の発言があった。

〇子どもたちの実態にあった活動（ラミネートはがし、ちぎる、ミキサー、紙漉き、ころころ）が設定しやすく、見通しをもちやすかった。

〇渡す人を意識して準備に取り組んだり、渡す時も相手を意識して渡したりすることができていた。

△「リサイクル」＝「変身」のキーワードは定着したがリサイクルそのものの仕組みや全体像を理解していくためには継続した学習が必要

△どんな紙漉き（色・形）にするかを自分たちで考えるところまで取り組めず思考を深めていくことができなかった。

△地域に縛られず校内での活動を設定し、紙漉きの活動を工夫できればよかった。

(8) まとめ

つながり
繰り返し

選択肢

授業で大切にしたいこと

見通し

達成感

小学部の取組み　まとめ

数字はそれぞれの研究グループを表す

実践の中で良かった点

①②楽しい体験をして、選択をすることで好きを増やせた。
③単元の繰り返しが見通しや、意欲につながった。
③児童の好きなこと、身近なものを題材にしたことで進んで活動に取り組めた。
④事前に考える時間を設定した。
⑤考える→実際に体験→結果を確認することで発見、気付きがあった。更に新しい「何で？」につながった。
⑤前期の内容の発展形にしたことで、学習内容を生かした発言が児童からあった。
⑥単元の流れを一定にし、他の授業場面でも作ったものを活用することができた。
⑥新しい言葉を知る機会となった。

地域と一緒に活動することで

①②大人と一緒に遊ぶ楽しさ、挑戦する気持ちがもてた。関わりが深まり、児童が安心して関われた。
③地域の方に向けた活動や、地域の方と一緒にする活動の機会を設けることで、意欲や期待感につなげられた。
④相手を意識した活動ができ、自分を動画で見たり、どっちが良い姿か考えられた。
⑤地域の方との活動を設定することで、他者意識をもち、より良いものを作ろうと考えられた。
⑥渡す人を意識して活動でき、その為に「どうする？」を考えることができた。

小学部の取組み　今後の課題

課題　改善策

①②発問や、振り返りの工夫が必要。

①②思考を深める問いかけ
表情マークなどの活用

④思考が表出しにくい児童へのアプローチが必要。

④支援のレパートリーを増やす。

③思考させるための手立てが不十分。

③教員が児童の思いに沿えるような言葉がけや発問
（例えば選んだ理由を尋ねる。）

③視覚支援の更なる活用

③発問の見える化

③写真やイラストのより効果的な活用

⑤実際に使用している所を見に行かれなかった。

⑥キーワードの定着のみ

⑥思考を深めていけてない。

⑥地域に縛られず校内での活動の工夫ができなかった。

教員が単元や題材ごとのまとまりや子どもの中で起こっていることを思考し続けたり、見通したりする。

教員に求められる力

「学習者としての子どもの『学び』を中心に据えなければならない」
「子どもの『学び』の状況をいかに見取れるかが最大のポイントになる」
「今まで以上に見えにくいものを見取る力が求められる」

①見取るための尺度（評価基準）をもつこと
②時間軸で子どもの姿をつなぐ（昨日〇〇で、今日はこうだった・・・）
③空間軸で子どもの姿をつなぐ（言葉、表情、しぐさ、視線）

土井指導主事　訪問指導時の資料より